

## 第5回 全体研究会

日 時：2015年2月6日（金）18：00～20：00

テーマ：「1956年のハンガリー事件と中国」

報告者：朱丹丹（外交学院外交学と外事管理学科准教授）

場 所：大学院校舎8階 東アジア研究所 共同研究室1

使用言語：英語

2015年に報告者が出版する新著Mao's China and Hungry の主な論点を紹介した。本書は、1956年から1957年にかけての中国の国内政治の展開とソ連陣営を中心にした国際社会の転換の関連性を取り上げている。新たに公開された資料を用いて主に二つのことを明らかにした。1)中国はソ連陣営内部ではソ連と平等の地位を獲得したという認識を持ったが、ハンガリー事件の発生によって中国の提起した「平等な国際関係」が構築されなかったこと。2)国内的に、双百方針は国内の発展方向とソ連との関係をめぐって、二重の危機を引き起こしたこと。この二つのことを踏まえて、毛は国内と対外関係において、急進的な方針を取り始め、中国とソ連の関係も強化されたと朱氏は論じた。